

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	131人
② 数学	131人
③ 理科	131人

5 留意事項

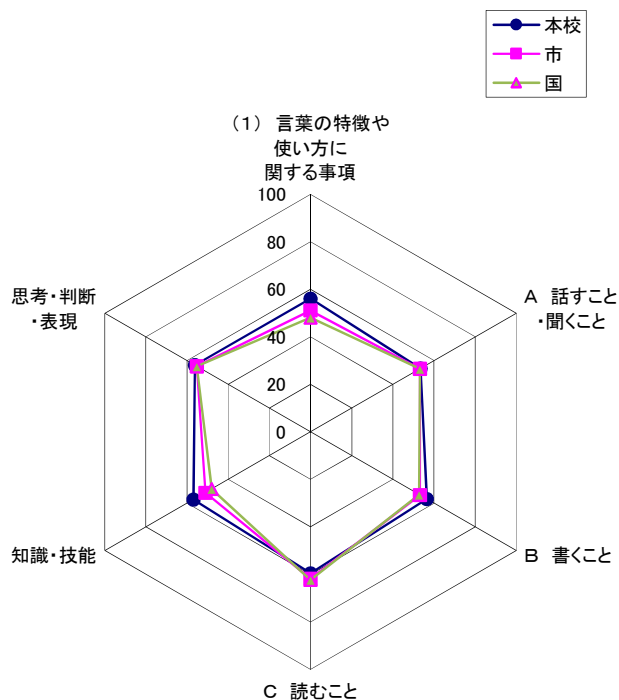
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	56.1	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	53.4	53.2	53.2
	B 書くこと	56.5	53.1	52.8
	C 読むこと	59.5	61.8	62.3
観点	知識・技能	56.9	51.1	48.1
	思考・判断・表現	56.2	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

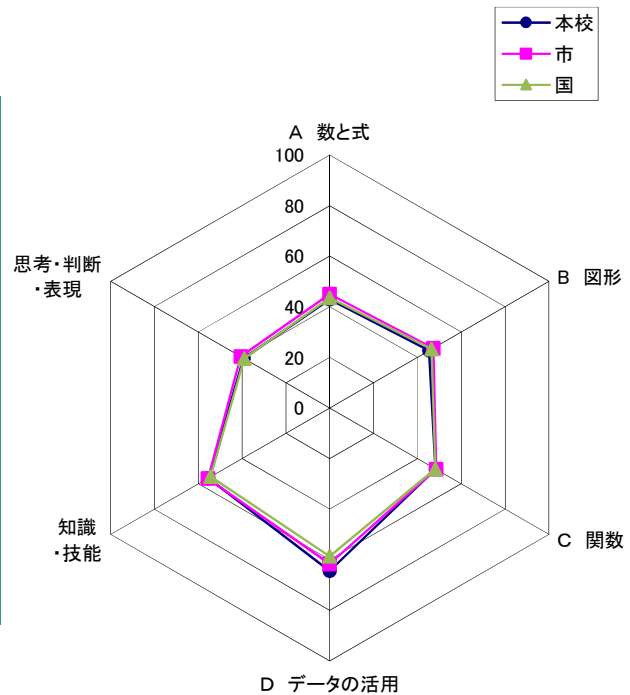
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、56.1%で市や全国の平均を上回っている。 ○事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題の平均正答率が、市や全国の平均を上回っている。文脈に即して漢字を正しく使う問題も同じく平均を上回る結果になった。	・漢字テストの実施や、言葉への意識を高める授業実践を今後も継続していく。ただ読み書きができるようになるだけでなく、日常生活の中で使う場面を想起させるなど、普段から活用できるような語彙の習得に努めていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、53.4%で市や全国の平均とほぼ同じである。 ○自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫する問題の平均正答率が、市や全国の平均を上回っている。	・分かりやすく伝える工夫など、話し方のスキル向上に有効的な言語活動を取り入れていく。主張と根拠を意識させることや、誰に対して話すのかという相手意識を高めさせることに努める。
B 書くこと	平均正答率は、56.5%で市や全国の平均を上回っている。 ●目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする問題の平均正答率は、市や全国の平均を下回っている。	・情報や材料の整理が課題になっているため、レポート作成などの活動を通して克服していく必要がある。実際に自分の気になったことを調べたりまとめたりする中で、情報を効果的に活用できるよう指導していく。
C 読むこと	平均正答率は、59.5%で市や全国の平均を下回っている。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること問題の平均正答率は、市や全国の平均を下回っている。	・多くの文章に触れるよう促し、さまざまな見方・考え方を身に付けられるよう指導する。説明的文章を読み際には、構成や展開に注目しながら筆者の工夫を読み取れるように指導していく。 ・観点を明確にして複数の文章を比較しながら読んだり、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けたりすることで、物事に対する新たな視点をもてるようにする。

宇都宮市立一条中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	42.9	45.0	43.5
	B 図形	45.4	47.2	46.5
	C 関数	48.3	48.5	48.2
	D データの活用	64.4	61.6	58.6
観点	知識・技能	55.4	55.6	54.4
	思考・判断・表現	39.3	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率は全国とほぼ同じであるが、思考・判断・表現の観点に比べて知識・技能が低い傾向にある。</p> <p>○文字を使って倍数について説明する問題の正答率が全国・市ともに大きく上回っている。</p> <p>●「1から9の中から素数をすべて選ぶ」に対する正答率が全国・市ともに大きく下回っている。</p>	<p>・素数など基本的な用語について、今まで以上に授業の中で意識して取り入れたり、復習を兼ねた問題や小テストを実施し、基礎的な用語の定着を図る。また、復習ややり直しの習慣がない生徒が多いため、確実な学習習慣も身に付ける指導を行っていく。</p> <p>・今後も継続して授業の中で友達に説明する場面を設けるなどし、計算が成り立つ理由なども説明できるようにしていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は全国とほぼ同じである。評価の観点における優位性は見当たらない。</p> <p>○三角形の外角を求める問題の正答率は全国・市と比べ大きく上回っている。</p> <p>●「四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ」に対して、全国・市の正答率を大きく下回っている。</p>	<p>・図形領域では特に、説明することが苦手と感じている生徒が多い。基本的な証明の問題を繰り返し解くことで考え方、表し方を理解させ、まずは自分の言葉で説明しようとする意欲を育てていく。</p> <p>・特に証明したことからわかることを自分で見つけていくという発展的な課題についての取組は普段から多くはないので、まとめの段階で今回の学びから言えることなどに触れていくようにする。</p>
C 関数	<p>○一次関数において、yの増加量を求める問題の正答率は全国・市を若干上回っている。</p> <p>●運賃がいくらになるかを関数を用いて考える問題では正答率は全国・市と比べ下回っている。</p>	<p>・グラフ、式、表の関連を意識させながら特徴を捉えさせる。</p> <p>・各学年で新しく学習する内容のときに、既習事項も合わせた問題演習などを行い、学習内容を関連付けていく。</p> <p>・事象を数学的に捉えていこうとする意欲を高めるための課題を取り入れていく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は全国・市と上回っている。特に知識・技能の観点では全国・市ともに大きく上回っている。</p> <p>○度数分布表から相対度数を求める問題、条件が付いたじゃんけんなどでAが勝つ確率を求める問題では、正答率が全国・市ともに大きく上回っている。</p> <p>●勝つ確率・勝ちやすさについての理由を答える問題では、正答率が全国・市とほぼ同じである。</p>	<p>・基本的な用語や求め方の確認を丁寧に行い、話し合い活動等を通して、資料の見方や活用の仕方を今後も継続して身に付けさせていく。</p> <p>・今後も確率の求め方など基本的な問題を中心に練習をし、計算の技能を高めていく。</p> <p>・確率を求めた後、結果について話し合ったり、表現方法についてまとめを確認したりしていく。</p>

宇都宮市立一条中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	56.0	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	62.0	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	45.7	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	39.2	36.7	37.3
観点	知識・技能	67.3	67.0	66.8
	思考・判断・表現	39.6	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

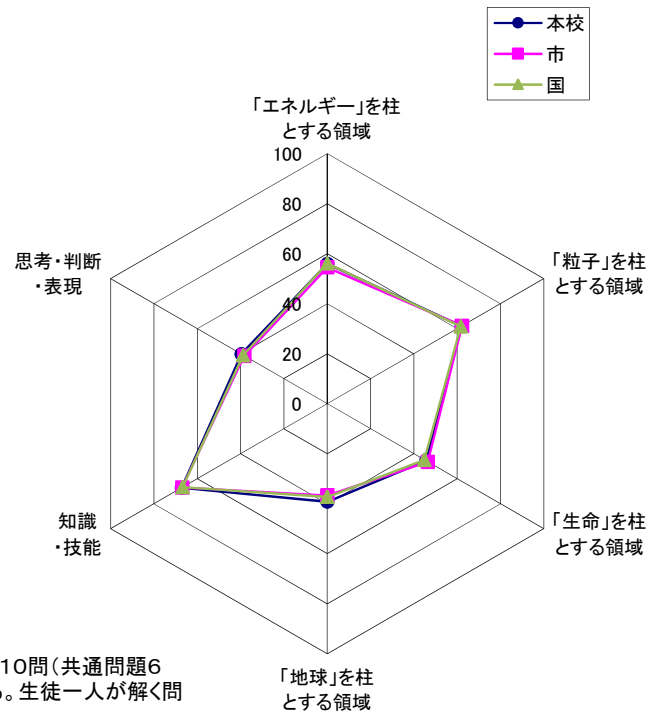
※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日により指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日により異なる問題16問)の調査結果を集計した値である。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○全体的に正答率が高い。 ●実験の問題において、条件統制を管理できていないところが見受けられる。	・今後も実験結果を活用し、表やグラフにまとめる作業を欠かさず行うことで、実験結果をまとめる技能の定着を図っていく。 ・学習した内容が身の回りでのどのように活用されているかを調べる活動や、実験の条件がどのように統制されているかを確認できる機会を設ける。
「粒子」を柱とする領域	○全体的に正答率が高い。 ●実験内容を身近な生活に結び付けて、解釈することに課題が見受けられる。	・今後も実験の結果をもとに物質の性質を考察させる活動を行い、体験的に学習することで物質の性質などの正しい知識が定着するようにしていく。 ・実験内容を身近な生活に結び付けられるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	○全体的に正答率が高い。 ●生物の共通性についての認識が低く、共通性と多様性の見方を比較して考えることに課題が見られる。	・生徒のもつ興味関心を刺激し、意欲的に授業に取り組める導入の工夫をし、多様な生物についての知識が系統的に整理できるような授業を行っていく。 ・生物がもつ多様性や共通性を確認できる機会を設ける。
「地球」を柱とする領域	○市や全国と比較して正答率が高い。 ●結果の表面だけでなく、そこに潜む疑問点や次の課題に取り組むための必要事項を見つけ出すことに課題が見受けられる。	・地層の変化や作りについてのイメージがしやすくなるよう視覚的に理解できる地層の模型や実験などを活用して、地形に関する知識や、変化についての推測ができるようにしていく。 ・実験結果を様々な視点から考えられるような授業を検討していく。



宇都宮市立一条中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ICT機器の活用については、「文章を作成することができる」、「情報を整理することができる」、「プレゼンテーションを作成することができる」の質問において、県や全国平均を6ポイント以上、上回っている。今後も、ICT機器を効果的に活用し、学ぶ意欲の向上を図るとともに、情報活用能力の育成を図りたい。

○「普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強するか」の質問に対して「2時間以上」の割合が県・全国とも10ポイント以上、上回っている。また、「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか」の質問に対して「2時間以上」の割合が全国平均を7.9ポイント上回る。今後も、学習方法の指導や「自主学習ノート」を生かした指導など、学びに向かう力を育み、学力の向上を図りたい。

○「授業で学んだことを、次の学習に生かしたり実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。」の質問において、全国平均を7ポイント以上、上回っている。

●「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思う」と回答した生徒の割合は86.5%で昨年度よりも8.7ポイント下回っている。伝え合う力の育成に向けての学び合いの場の設定と、多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫を図りたい。

●「新聞を読んでいるか」の質問に対して、読んでいる割合が低く、「ほとんど、または全く読まない」と回答した生徒が84.9%である。本校ではNIEに取り組んでおり、新聞クラブを立ち上げたり、新聞コンクールに全校生徒で参加したりするなどしている。各学級に毎日配布される新聞の活用を図り、広い視野と思考力・判断力・表現力を育成する。

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に対して、肯定的な回答は96%である。「いじめは許されない」という意識を高めるとともに、自己を大切に、仲間を思いやる心を育み、日常的なトラブルがいじめに発展することがないように、未然防止を図りたい。

宇都宮市立一条中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な内容の確実な定着と、思考力・判断力・表現力を育てる場の設定。	多様な考えや文章に触れ、それらを理解・考察・分析して考えをまとめ、書く機会を増やすことで、考えを秩序立てて文章にまとめる力や文章を読み取り分析してまとめる力の育成。	・自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できていますか」の質問では、県と全国の平均を上回っている。
学習意欲を育てるために、動機づけをする場の設定。	・習熟度学習やTTの充実による学習意欲向上を図る。 ・生徒一人ひとりが興味・関心を持って取り組める学習課題の設定の工夫をする。	・「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる。」学習した内容について見直し、次の学習につなげることができる。」の質問はどちらも県と全国の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
本校及び市や県では「書くこと」が課題になっている。本校においては各教科で取り組みを行い、自分の考えを書き力が徐々に伸びている。調査においても、書くことや説明の正答率が市や全国平均を上回った。しかし、道徳の授業や学校生活では、自分の考えを深めたり、協力しながら課題の解決に取り組んでいるの肯定率が県や全国平均をわずかに下回った。	・道徳教育の充実 ・伝え合う力の育成	・コミュニケーション能力や感受性の育成に努め、言語活動の充実を図る。 ・学び合いの場の設定と、多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫をする。